

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を語りあげている</p>	<p>家庭に生活していた時のように洗い物や食器片づけなどをして頂くことにより、入居者の残存機能を維持していく理念としている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念について職員トイレに掲示するなどして啓蒙をはかると共に、入居者の生活の一部に取り入れられ実践をはかっている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>地域の人々への働きかけがないと判断する。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>隣近所とのつきあいはほとんど無い状況である。</p>	<p>奥まったところに立地しているという状況もあるが、近くの病院の行事へ参加したり、グループホーム同士の交流もはかっていくことが必要だと思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>研修会に参加し、学んで活用したい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>研修会などに参加し、関連法について学ぶ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>不満や苦情の公表を行う。デパート等の苦情改善の公表のように、問題点と解決の状況等を張り出していくことを検討する。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>健康状態について定期的に報告するような仕組みづくりを検討したい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>不満や苦情の公表を行う。デパート等の苦情改善の公表のように、問題点と解決の状況等を張り出していくことを検討する。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>状況の変化に応じた勤務体制をとるということをしていない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特別な理由がない限り職員の異動は行っていないが、退職による交代について、利用者へのダメージ防止という配慮は特にしていない。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>限られた人員数で行っているため、研修に参加させる機会が少ない。</p>		<p>非常勤者の利用等により研修に参加できるような機会を確保したい。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>経営者は他の事業所と交流しているが、管理者及び職員が交流する機会はないのが現状である。</p>		<p>近隣の事業所の訪問見学から初めて交流を持ち、勉強会などの開催につなげていきたい。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職務分担等を均一にする要改善に向けてすすめているが、その他のストレス軽減については行われていない。</p>		<p>メンタル面でのストレスを軽減する工夫をしたい。</p>
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努力や実績、勤務状況について把握している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネジャーが入居相談から入居後の相談まで行っており、対応している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ケアマネジャーは、相談時、当グループホームのサービスが妥当かどうか家族と話し合い、場合によっては他のサービスを進めるなどしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>これまでの暮らしぶりや職歴、性格などの情報をスタッフで共有して、早くなじめるようコミュニケーションを取っている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションを大切にしているが、はかるものが無いため判断が難しい。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にしているが、はかるものが無いため判断が難しい。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相談時及び情報提供書により理解するよう努め、その関係を踏まえて対応している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等は自由に来て頂いているが、こちらからで向くような支援はほとんど出来ていない。病院等はそのまま利用して頂いている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋に閉じこもったりすることなく、出来るだけホールで他の入居者と混じり合うよう雰囲気作りをしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後に継続的な関わりがあった事実がこれまでない。		当ホームでの暮らしぶりなど、情報が必要な場合等は気兼ねなく受ける雰囲気作りになっているとは思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居面談時や日中の本人との会話の中でその人の希望や思いを引き出していくようにしている。職員のミーティングの中で情報を共有し、今後のケアに活かせるようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居面談時に家族や本人、担当ケアマネより生活歴や今までのサービス利用状況の聞き取りをしている。日々のコミュニケーションの中でも、本人がどのように暮らしてきたかという情報が得られたらアセスメントシートに記録し、全員が把握できるようにしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>全職員が入居者1人1人の状態や生活リズムを把握できている。変化がみられたらその都度生活記録や申し送りを活用し、ケアの統一を図っている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントを使用し、利用者本位の介護計画を作成するよう努めている。家族の面会時には思いや要望を聞き、介護計画に反映させるようにしている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常3ヶ月に1回のモニタリングを行い、介護計画についてスタッフ全員がカンファレンスに参加している。見直し以前に状態の変化が生じた場合にはそのつど話し合い、現状に即した計画を作成している。</p>	<p>現在は作成後に家族への介護計画の内容を説明し理解していただいていることが多いが、今後は現状の入居者の状況を家族に伝えたくて意見や要望を取り入れた計画にしていきたい。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個別に行っており、日々の様子や本人の言葉、行動、実践したケアを毎日残している。それを基にしながら職員間で話し合い、介護計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	該当しない		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な運営推進会議を行い、地域の方や民生委員等に参加していただいている。		地域の方々との積極的な協力が得られていないため、今後は慰問等のボランティアにも来ていただけるように働きかけていきたい。
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退去時の情報交換のほか、状態変化等あった場合は他のケアマネジャー、相談員と話し合いを行っている。		
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当しない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人の主治医への受診とし、情報提供書を提出している。状態変化時はその都度報告をしている。定期受診のほか気になる症状があるときにはその都度受診している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要があれば主治医から専門医への紹介状を頂き、専門医による診察・検査を行っている。医師への状態報告を行い、必要な助言や治療を行っている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が週に2回定期的に健康管理を行っている。介護スタッフと看護職員との連携により適切な受診を行っている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはホームから情報提供を行い、また病院スタッフから状態報告を受けるなど、相談の機会を持つようにしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化があった場合は主治医へ報告し、その内容を家族へ連絡している。入居時や家族との話し合いの中で、今後の方針の希望があればアセスメントシートに記入し共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム側の「出来ること・出来ないこと」を主治医へ報告し、相談しながら今後の方向性を家族を交えて話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前の面談の際に、家族・本人の希望を聞き職員間で情報を共有するようにしている。また住み替え時には本人の理解を得られるよう努力している。なるべく以前の本人の居室に近づけるように、使い慣れた家具などを持ってきていただいている。</p>		<p>施設の方針や他者との共同生活であることを入居前に説明し、家族や本人に納得を得られるように努める。その上で本人らしい生活が送れるように支援していく。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の情報や現状を全職員が共有し、個別にあわせた対応をしている。記録等の個人情報についても必要以外外部に漏れることの内容に徹底している。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>コミュニケーションをとりながら本人の訴えを引き出し、希望に添えるように援助している。自己決定の機会を出来るだけ増やし、本人の意思を尊重している。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床、食事、入浴等の1日の流れについては施設側で日課として提供しているが、その他の時間はその人本人に合わせ、自由に過ごせるようにしている。</p>		<p>日課については共同生活であることもあり、すべての入居者の希望に沿うことは困難だが、なるべく1人1人のペースを大切にしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>衣類は家族が持ち込んだもののほかに、本人と一緒に買い物に行き、自分で選んでもらっている。散髪については施設側で提供している理髪店をほとんどの方が利用している。</p>		<p>外出の機会を増やし、希望に沿った衣類や理美容院の提供が出来るようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みに合わせた味付けや、能力に合わせた食事(おかゆ・刻みなど)に配慮している。利用者とともに茶碗拭き等を行っているが食事の準備や一緒に食事をとるまでにはいたっていない。		検食者のみが入居者と同じ食事をとっているが、入居者とスタッフが一緒に食事を取れる状況が作れればと思っている。食材の買い物にも入居者と一緒に行き、希望を聞いていきたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等の時間に提供するもののほかは、家族の差し入れ等を居室において、好きな時間に食べている利用者もいる。		おやつ等の好みを聞きながら提供できるようにしていきたい。現在、お酒やタバコを思考される方はいないが、1人1人に合わせた対応をしていきたい。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時にオムツを使用している利用者もトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。定期の誘導にも排泄パターンにあわせている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回(火・金)を入浴日としている。拒否があった場合には時間をおいて再度声掛けするなどしている。		入浴、着脱等解除が必要な利用者が多いため、どうしても回数、曜日などは決められた日にしか提供できていないが、なるべく利用者の希望やタイミングにあわせていきたい。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、好きな時間に休息がとれるようにしている。昼寝がしたい場合には居室で休んでいただき、本人の習慣に合わせている。夜間は21時消灯だが、希望により臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来る軽作業やレクリエーションを通じて役割の楽しみを引き出していく。また季節の行事やドライブ、外出などの機会を作り気分転換を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお小遣いを自分の居室にて所持している利用者もいるが、ほとんどの人は施設内で管理し、買い物や外出時の支払いも職員が行っている。		物盗られ妄想のある利用者もいるため、トラブル防止のため金銭管理は施設側で行っているが、外出時や買い物の支払いを自分で行えるよう支援していきたい。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	是までも1人1人に個別に付き添ってのショッピングや買い物を行ったことはあるが、日常的な外出の頻度にはなっていない。		暖かくなってきたら外出の機会を増やし、出来るだけ個別対応が出来るように努めたい。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事等でいってみたい場所を聞き、遠出のドライブなどを行っているが、家族との外出は面会時や外泊時程度である。		行きたい場所なども利用者がイメージしやすいように写真やパンフレットを活用し、選択しやすいよう心がけていきたい。また、家族の参加も取り入れた行事を計画していきたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りはあまりないが、電話については利用者の希望があればその都度対応し、家族につなぐところまで支援して会話していただいている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問には特に制限はなく、いつでも気軽に来ていただいている。本人の居室やホールにてお茶を飲みながら会話してすごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全入居者に対して身体拘束はしていない。また、全職員に対する意識付けもきちんと行っており、徹底して実践している。職員は常に安全に気をつけて、入居者の見守りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室は鍵をかけておらず、自由に出入りできるようにしている。日中は常時職員が玄関～ホールを見守り出来るような体制にしている。また、外出を希望する入居者については必ず職員が付き添い、事故防止に努めている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中ホールで過ごされている入居者については常に職員が見守りを行い、様子を把握している。また、居室にて過ごされている時は時間ごとに職員が訪室するなどして、所在や様子を把握している		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管・管理場所を決めている。入居者が使用する物品(はさみなどの刃物)についても保管場所は決めているが、訴えなどあるときは常時貸し出せるようにしている。使用時には職員が見守り、事故防止に努めている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療マニュアルを設置し、全職員が目を通すようにしている。また、職員は日常生活において事故が予測されることについて申し送りノートやミーティングを利用し予防策を考え、事故防止に取り組んでいる。		医療マニュアルに目を通すだけでなく、全職員の知識を高めるため勉強会を開催したい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員による、急変自体負うマニュアルがあり、全職員が目を通し、対応できるようにしている。定期的な訓練までは行えていない。		定期的な勉強会を開き、利用者1人1人の既往歴や現病歴を把握した上での急変時対応を考えていく。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々と関わり合いが少なく、協力を得られる体制とはなっていない。		近所の方々と行事や見学会をもうけることにより関わりをつくり災害時の協力を得るようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者個々の生活様式の中で考えられるリスクについては面談時や面会時、家族に説明し、または状態に応じては電話での連絡などで行っている。出来る限り入居者の生活様式に沿ったケアを提供できるようにミーティング時に話し合い実践している。		遠方に住んでいてなかなか面会にこられない家族へも現在行っているケアについて理解していただけるよう職員間で話し合った際はその内容を電話などで伝えられるようにしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者1人1人の日常の状態をきちんと把握して、特変時には早期発見できるように心がけている。気になる症状等が見られたときには記録はもとより、職員間で申し送るなどして情報を共有している。特変時の基本的な対応は全職員が把握して行っている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者1人1人が服用している薬の内容は看護職員からの説明や受診票や処方箋などで全職員が理解し把握していると思われるが確認するまでにはいたっていない。新しく処方された薬についてはそのつど看護職員から申し送りや説明を受けている。		定期的に入居者1人1人が服用している薬について見直したり確認する機会として、看護職員を交えての勉強会を開き、全職員が常に理解できている状況を作りたい。
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝食時に牛乳を飲んでいただくなど水分摂取を促したり、食材にごぼう等の繊維が多い野菜を使用するなど工夫に努めている。また入居者1人1人の身体状況に応じ、身体を動かすよう声がけをし働きかけている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声がけを行い、入居者1人1人の状態にあった形で義歯洗浄・口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日記録し入居者1人1人の食べる量を把握した上でその人にあった量を提供している。また、その人のこれまでの習慣に応じた形で提供できるよう努めている。毎日の献立についても栄養バランスが偏らないよう配慮し作成している。しかし1日を通しての水分量については記録として残していない。		入居者1人1人の状態把握のため、1日の水分摂取量を記録として残していくようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの徹底をはじめとし、施設内の消毒、タオル類の消毒を毎日行っている。また状況に応じてマスクや手袋の着用もしている。インフルエンザに関しては入居者の予防接種を徹底して行っているが、職員は予防接種は個人に任せており、徹底されていない。		インフルエンザの予防接種は入居者だけでなく職員も徹底して行っていこうにしたい。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は使用の都度清掃し、常に清潔を保っている。まな板など調理器具も使用の都度に消毒を行っている。食材に関しては献立にあわせ適量のみを購入し、常に新鮮な食品を提供するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内には季節に応じた展示物を飾り工夫している。しかし来客者が安心して出入りが出来るよう玄関先(外から見えるところ)にもう一工夫あればと考えられる。		玄関外側の戸が殺風景なので、温かい雰囲気のある展示物(看板など)を飾っていききたい。また暖かい季節になったら玄関周りに花の鉢植えを置くなどしたい。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内には季節に合わせた飾り付けをし、季節感を感じていただけるように配慮している。また廊下には入居者のスナップ写真を飾り、入居者同士や入居者と職員との間の会話のきっかけが作れるよう工夫している。浴室やトイレは清潔を保ち、安全であるように配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファを設置し、食堂との区切りもなく入居者が自由に行き来しやすく思い思いの場所できつるげようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けのベッドとタンス以外は本人が今まで自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただき、自室での暮らしに近いよう配慮している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>掃除の最中は換気を行い空気の入替えをしている。また、トイレ・ポータブルトイレのある居室には芳香剤を置き、悪臭の出ないようにしている。温度調節は利用者の状況に応じ、対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーとなっており、廊下には手すりがついているため歩行が不安定な方や車椅子利用の方でも移動が出来るようになっている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレや居室などはわかりやすく提示して混乱の内容に工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>移転して間もないため、室内の空間(ソファやテレビの配置など)のみ活用だけで建物全体を活用できていない。</p>		<p>今後暖かくなったら庭なども活かして家庭菜園や花壇作りなどに取組んでいきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の皆様が安心して「普通の暮らし」を送ることが出来るよう、家庭的な生活環境・雰囲気作りに努めるという理念の下に、認知賞がある利用者をありのままに受け止め、1人1人の個性を活かし、尊重しながらサービスの実践をしています。家で暮らす生活と同じように自由にマイペースで過ごしながらも、季節の移り変わりを感じる事が出来るように行司や外出にも取り組み、毎日の生活に楽しみを増やしていけるようなケアを心がけています。